

活 動 名	団 体 名	特定非営利活動法人 SPICA
いのちの教室	地 域	広島県広島市
	代 表 者	代表 山下 育美
	支援金額	30 万円
活動概要	広島県は平成 23 年度、犬猫の殺処分数が全国で最多となりました。この現実を伝え、小さな命をどのように守って行くかを子供達と一緒に考えるのが「いのちの教室」です。対象は、広島県内の中学生から大学生まで、それぞれの年齢にあった講義内容を用意します。柔軟な思考を持つ若い世代に、誰もが目を背けてきた殺処分の現状を伝え問題提起をすることで、新しい時代・新しい社会を作り出す力を生み出すと信じています。講義を聞いた後は、希望者に動物愛護センターでの体験ボランティアに参加してもらいます。掃除や犬猫の世話等を通じて、実際に殺処分を前にセンターに収容されている動物と触れ合うことで、血の通った動物を処分し続ける社会の問題点を感じてもらいたいと思います。 ◆実施時期 平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日 広島県内の中学・高等学校 ◆参加人数 進徳女子高校 440 名(41 名)、黒瀬児童館 30 名、比治山女子中学校 100 名(8 名) いぬ・ねこフェスタ 20 名、武田中学校 100 名、 広島女学院高校 100 名(14 名)瀬野児童館 15 名、 可部中学校 380 名 ()内はボランティア参加者数 参加総人員:1,185 名(63 名)	



広島女学院高校でのいのちの教室
準備から実施まで生徒さんの運営で行いました。講義の後にはたくさんの質問もあり、生徒さんの意見も聞くことができました。



可部中学校でのいのちの教室
みなさん、食いつくように写真を見つめ、真剣に講義を聞いてくれました。保護者の方の参加もあり、家庭で話し合う材料になったと思います。



進徳女子高校ボランティア
動物愛護センターには飼い主のいない犬や猫が多数収容されています。生徒は散歩や掃除などのお手伝いをして、ふれあいの時間も作ってもらっています。



比治山女子高校ボランティア
ボランティアに参加する生徒さんには、必ず殺処分機「ドリームボックス」を見学し、職員さんの話を聞いてもらいます。

◆実施に伴う効果

この活動は、その効果が目に見えて表れにくいものであり、現時点でははっきりとした社会的な影響力は見られない。広島県の犬猫殺処分数が減って行くことで、効果を実感できるかもしれないが、それには生徒たちが大人になって、自らの判断でペットを飼ったりするところに現れるはずである。

ただし、生徒たちの内面的な変化は大きいように感じられる。

進徳女子高校では、ボランティア活動への参加希望者が多く、対応しきれない状況が続いている。動物の現状を知り、「自分たちに出来ることはないか」と考える生徒が多く、積極的に社会貢献をしようという態度が生まれている。

また、広島女学院高校では、「いのちの教室」実施後、動物たちのために、校内で支援物資を集め、動物愛護センターへ届けている。その後、生徒たちは広島市・呉市の動物愛護センターで、それぞれボランティア活動を行い、その体験などを校内新聞などとしてまとめることになっている。

比治山女子中学・高等学校では、生徒会の生徒たちが、文化祭で「いのちの教室」と題し、ボランティアに参加した際の体験などをまとめて、展示発表を行っている。また、放送部の生徒たちは、動物愛護センターに収容されている動物や、生徒たちのボランティアの様子をビデオにまとめ、コンクールに出品予定とのことから、生徒一人一人が、自分の目線からこの問題に取り組んでいることが分かる。

◆苦勞した点

○各学校や先生方に、「いのちの教室」の内容や趣旨を理解してくださっても、実施してくれる学校が少ない点。カリキュラムに組み込んでもらえるよう、早い段階での学校訪問と実施要請を心がけている。

○ボランティア活動に参加を希望する生徒が多くても、広島市の動物管理センターは施設が狭く、一度に5名しか参加できないこと。呉の動物愛護センターには10人程度が参加できるが、体験ボランティアの日が毎月第3日曜日と決まっているため、生徒たちと日程を合わせることが難しい。

◆今後の課題・発展の方向性

○受け入れ校の拡大について、今後は、動物愛護センターと協力して、呉市・広島市と行政側からも呼びかけをしてもらい、より広い範囲で受け入れ校を探したい。

○今後の課題は、生徒の中からボランティアリーダーを育成すること。上級生が下級生に作業内容や方法などを説明し、生徒が主体的に活動を進めていくよう促すことができるようになるためにも、継続してボランティア活動に参加する生徒を育成したい。

○今後は、「いのちの教室」～「中学生・高校生ボランティア」の活動を、どう社会的に波及させていくかが課題となる。広島市の動物愛護センターは、富士見町の町の真ん中にあるにもかかわらず、その存在はあまり知られていない。中学生・高校生の若い生徒たちがそこで活動していることを、しっかりとアピールし、市民に関心を向けてもらえるよう工夫したい。

○また今後は、大学生とも協力関係を築き、積極的なボランティア活動や社会貢献を促したい。

◆活動を終えての感想・意見等

取り組み始めて2年目の「いのちの教室」は、8つの学校や施設で実施することができ、中学生・高校生ボランティアは、予定をはるかに上回る13回を実施することができた。その分、たくさんの学校や生徒とのかかわりができ、意見を交換しながら、より良い活動ができたと思います。

昨年度同様、「いのちの教室」のアンケートでは、9割以上が「聞いてよかった」と答えてくれました。家庭でペットを飼っている生徒にとっては、非常にづらい内容だったと思いますが、そういう生徒こそ「現実を知ってよかった」と考えてくれています。少年による犯罪や凶悪事件が気になる昨今、「命」と向き合う時間を持つことは非常に大切なことだと考えています。人間によって絶たれる犬や猫の命について考えることで、その重みや大切さを実感してくれたと思います。

マツダ財団さまには、2年にわたり、「いのちの教室」をご支援いただき、本当にありがとうございました。助成金をいただけたことはもちろんですが、「マツダ財団の支援を受けている」という事実が、何より広島の人たちから信頼を得る一番大きな材料となりました。2年間のご支援のおかげで、「いのちの教室」と「中学生・高校生ボランティア活動」の基礎を固めることができました。まだまだ改善の余地のあるプログラムですので、今後ともよりよい授業ができるよう頑張っていきたいと思います。2年間、ありがとうございました。